いつかギラギラする日／アナーキスト２

カマ野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いつかギラギラする日／アナーキスト２

【Ｎコード】
Ｎ４６８６Ｚ

【作者名】
カマ野郎

【あらすじ】
４人のアナーキストと４人の女神が廻る運命を変える奇跡の数ヶ月間
運命を変えたいかい？じゃあ、願え、動け、考えろ、戦え。

説明（前書き）

頑張ります。

説明

アナタハジンセイニ満足してますか？それとも後悔してますか？
これからやる内容は作者がノリと逝きよいでやるので、路線がずれたりするで気をつけてください。
カオスなことになったりしますそれを踏まえてお読み下さい。
そして文句があるなら感想やらに書き込んでください。
一番上の文字は気にしないで下さい。作者がパニクったと思い下さい。
いきなりですが、ここに誓いを立てたいと思います。
まず第一、どんなに時間がかかっても物語を書き続けること。
第二、けなされたとしても絶対に諦めない事。
第三、なるべく面白い物語にすることをここに誓います。
何をパクったのかをここに記載する
「攻殻機動隊〔ＴＶ版〕」「男たちの挽歌」「ＦＦ１３」〔キャラクターのみ〕など・・・長くなるのでどここまでにしておきます。
呼んでくれた読者のみなさんありがとうございました。

始まりと終わりに（前書き）

さあ、頑張ろう

始まりと終わりに

チャイ「よしゃあーーー！！！カジキが釣れたあああああー！！！！」
ホープ「おめでとうございます、チャイさん」
チャ「ホント・・・一週間かけて餌を作り、３日で竿を作りそして・・・」
こ「救援信号を何度か送りやっと2年賭けてやっと組織に送ることができた」
チャ「そうだ、２年も・・・ところで何時から俺の後ろにいるんだ？こーちゃん」
こ「二分前からですよチーフ」
チャ「そうか、わかったそれよりも仕事は終わったのか？」
こ「終わったからここにいるんですよチーフ、メシにしますよ」
チャ「そうだなハラが減ったら戦は出来ないというし・・・」
こ「へぇ～そうですか」
チャ「何か、不満でもあるか？」
こ「別にないですけど・・・先に行ってます」
チャ「ああ」
ホ「あ！・・・またシーラカンス釣れちゃいました」
チャ「またかよ、もういいよシーラカンスはもう！１５０匹目だよ今日で」
ホ「すみません、不甲斐なくて」
チャ「ゴメンゴメン、気にしなくていいから先に行っててくれ」
ホ「ありがとうございます」
ハァ～なんでこんなことになったんだけ？
え～とたしか・・・数ヶ月前に・・・

始まりと終わりに（後書き）

今日ここまでです

どん吐チャイクライ（前書き）

まあ、面白くなるよう頑張ります

どん吐チャイクライ

地獄・需要参考人取調室
ルシファー「さっさと吐いてくれねぇと、こっちも我慢の限界なんだけどねぇ～」
チャ「吐いたら解放してくれる？」
ル「考えてやらん事もない」
チャ「わかった吐くよ」
ル「そうか吐くのかそうみたいです監察官殿」
監「そうかそれはいい判断だ４年間待ちどしかったぞクソガキ」
チャ「じゃあ、吐くね」
監「さっさと・・・」
チャ「ゲロオオオオオェーーー！！！」
監「クソ！スーツがゲロまみれだ！！クソ！」
ル「すみません」
監「はあ？」ゴン！、パタン
チャ「ウワォ、豪快だね」
ル「そりゃあ、ありがとさんジョン」

どん吐チャイクライ（後書き）

なんか中途半端に

脱走（前書き）

書くことないです。

脱走

ル「ああ・・・これでオマエと同じになちまったよ、クソ」
チャ「おめでとう」
ル「めでたくねーよ、ったくよなんで悪魔が天使側のスパイを助けなきゃならないんだ」
チャ「昔馴染み・・・ってことで」
ル「まあ・・・地獄の始末屋やってる時に助けられた借りチャラだからな」
チャ「別にいいけど・・・コレ貰ってもいい？」
ル「ハァ！？拷問で頭イかれちまったのか？それは絶対ダメだ」
チャ「なぜ？」
ル「それはなあ神殺しの銃という神やら悪魔など存在を消せる天界と地獄に二挺しかないあぶない銃なんだよ」
チャ「なんでこんな所に置いての？」
ル「それは・・・ジャン負けして俺が持つことになったんだよ」
チャ「ふ～ん、そんなことよりも後ろ！」
ル「はは～ん、そんな手には・・・」
チャ「オラ！！」
ル「あべし！！！」バタ・・・
チャ「ゴメンな・・・今これが必要なんでね」
数分後

脱走（後書き）

以外とうまくできました。

帰還（前書き）

ハァ〜ン死ぬ〜

帰還

ガシャーン！
看守「脱獄じゃあー！！！」
チャ「ヒャッホー！」
キイイィ―！！！！
看守リーダー「迎え撃つぞー！！キサマらー！！！！！！」
看「ヘイ！」
チャ「お？」
看守リーダー「はははははキサマはここでくち・・・」
ドン！
チャ「あ、ヤベぇ轢いちゃった」
看守リーダー「おぎゃあああああああああああ」
チャ「まあ・・・いいかどのみち地獄だし」
キュルルル～ブーン！！
この時はまだ、簡単に終わることだと思っていた・・・

帰還（後書き）

ハァ～生きる～

帰郷（前書き）

イエスウィキャン！

帰郷

新浜県新浜市道路
ガシャン！、ドカーン！！！
肉「クソ！クソ！クソ！クソ！何なんだアイツは！？」
キイィィー！！！・・・ガチャ！
チャ「何逃げようとしているのかなあ～肉島君？」
肉「あのよう・・・あんたは何か勘違いしてねえか？」
チャ「・・・」
肉「俺はただ言われた通り総理になって公安の連中をクビにしてあのクソアマを・・・」
ガン！ガン！ガン！ガン！ガン！ガン！
肉「ゴボ！・・・オガァ・・・」
チャ「オマエに良いことを教えてやるよ」
肉「・・・？」
チャ「公安9課を解散させたことは許そう・・・でもな、少佐のことを・・・」
チャ「クソアマと罵る奴には・・・八つ裂きにすることに決めたんだよね」
肉「ちょ・・・」
チャ「今から俺がオマエの耳を切り落とし鼻をへし折り瞳を切り裂くまでに5秒ぐらいの猶予がある」
チャ「そこで、オマエに出来ることといえば祈りながら何が起きているのかを言うことと黙って神に祈ることだけだ」
肉「どっちにすればいいですか・・・？」
チャ「テメェで決めろ」

帰郷（後書き）

今日は旨くいった。

後始末（前書き）

花火ファイヤーーーー

後始末

数分後
すぅー、ふーん・・・
ダ「で、君何話したの肉島君？」
肉「えーとその～」
ダ「まあ君のおかげで我々の計画は順調に進んでいることだし何を洩らしても問題ないけどねぇ～」
肉「・・・全部洩らしてしまいました」
ダ「何の？」
肉「計画の全容を・・・」
ダ「へぇ～そう別にいいよ」
肉「え！？なぜですか？」
ダ「だってキミ、口軽そうなんだもん～だから半分ニセの情報ををキミに吹き込んだの」
肉「そうなんすか・・・」
ダ「おもしろいことにそんなどうしようもないキミが総理になってこのセカイの社会をひっかき回したおかげで公安９課が動いて女神の捕獲手早く済んだ」
肉「それは・・・」
ダ「それよりさあ」
肉「ハイ？」
ダ「生肉と焼肉どっちが好き？」
肉「え？」
ダ「おれはねぇ～生肉の方がすきなんだよねぇ～」
肉「私は・・・焼・・・」
ビューワァー！！！！

後始末（後書き）

肉「ぎゃあああー！！！！」
ダ「ゴメンねもう、キミいらないからもう退場」
部下「これからどうします？」
ダ「女神たちとその息子が1人そろったから要らない奴全員消えてもらおう」
部「そうですか・・・わかりました」

捜索（前書き）

やってやろうぜ

捜索

病院受付
看護師「ですからあの～その人は退院しています」
チャ「ホントに？」
看護師「本当です」
チャ「じゃあ担当した医師は？どこの部屋で入院してたの？ねぇねぇねぇ？？？」
看護師「・・・あ！院長！？」
院長「どうしたのかね？」
看護師「この子が、やたらと患者さんの所在を聞いてきて・・・」
チャ「・・・」
院長「あ～キミか！なんだ～」
看護師「え！？知り合いですか？」
院長「友人の息子だ。たぶん、父親が退院したという情報を知らされるのが遅くてここに来たのだろう」
看護師「でも・・・」
院長「いいからいいから、後は私に任して君は通常業務に戻りなさい」
看護師「でも・・・」
院長「いいから戻りなさいいいね？」
看護師「わかりました・・・戻ります」
院長「そうか、じゃあ行こうか・・・ボク」
チャ「ああ、行きましょうおじさん」
院長室
カチャ！！

捜索（後書き）

チャ「やっぱ・・・そういうことか・・・」
院長「フフフ～まさか、女神の息子”にお目にかかれるとは私にもツキがまわってきたようだ」
チャ「へぇ～そう呼ばれてんだ・・・ところで課長の居場所知ってる？」
院長「ああ、知ってるともそれを知る前に君は我々の計画に参加してもらう」

対話（前書き）

延びた――――――――!!!!!1!!!!!!

対話

チャ「計画・・・ああ、あの訳のわからない計画？」
院長「フフフフフ・・・君にとってはわけのわからない計画かもしれんが私たちにしたらかなり重要な計画なんだよ」
チャ「だから、９課を解散させ少佐を拉致してわけのわからん実験を行い入信した人たちをマインドコントロールしたわけか」
院長「クククククク、幸せになれますと誘い後はいろいろと吹き込んで社会に不信感を抱かせ後は・・・まあ、言わなくても分かるだろう？」
チャ「‘調教”だな？」
院長「男だろうと女だろうと薬漬けにしたり揺さ振りをかけたりすれば後はカンタンだ」
チャ「へぇ～そうか大変不愉快な話だ」
院長「そうかもっと不愉快な話をしてやろう、なぜ９課が解散されたと思う？」
チャ「さあ、わかんねぇ～なあ・・・」
院長「あいつが私達がやってきたことを全否定しやがったんだ」
チャ「あいつ・・・少佐のことか？」
院長「ハハハハハハ、あいつそんな名なのか？」
チャ「いや、呼び名みたいなモノだ」
院長「じゃあ、本名はなんだ？」
チャ「その前になんて言われたんだ？」
院長「‘自分を変えられない奴が神になれるか”だとよう」
チャ「へへへへへ・・・ざまあみろ」
院長「おいおい、まだ話に続きがあるんだよ聞くか？」
チャ「・・・もういいよ」

対話（後書き）

また、延びたーーーーーーーー！！！！！！

ディアドクター（前書き）

クソ！書いた奴が消えた！

ディアドクター

院長「おいおい、君が聞きたいと言ったから話っているんだ最後まで聞けよ」
チャ「はぁ～わかった、わかった、勝手にしてくれ」
院長「あいつ・・・いやあの女が我々の‘聖なる撃鉄”を全否定した後、何が起きたと思う？」
チャ「知るか？」
院長「‘あの人”が現れ、女を捕らえたその後‘あの人”は‘聖なる言葉”を述べた」
チャ「あの人？聖なる言葉？聖なる撃鉄？何じゃそりゃ」
院長「今は意味がわからなくてもいずれ来る‘審判の日”にはわかるよ‘女神の息子”よ」
チャ「ホントお前らの目的がわけ分からない」
院長「フフフフフフフ・・・君にとっては理解に苦しむことかも知れんが我々にとっては重大な意味を持つモノなのだよ」
チャ「もういいから、聖なる言葉やらを教えてくれ」
院長「‘この聖女は義体だ。我々の計画にとって都合のいい事だが、この者の脳と魂がダメだそこでだみなさん、この聖女を女神にするために私の血肉を与えようと思ういいかな？”」
チャ「血肉を与える・・・まさか・・・！！」
院長「ヒャはハハハハ～半不死者にしたのだよ」
チャ「テメェ・・・！！！！」

院長「いやはや・・・君の弱点を聞いておいてよかったよ」
院長「まあ・・・そんなにカリカリするなよまだ話の続きがあるんだから」
チャ「・・・」

院長「その後は大変愉快だったまず頭に我々が造ったマイクロマシンを植付け記憶やゴーストなどを弄り廻し、後は堕ちるまで調教パーティよそれと・・・」

院長「‘お前の個を知っている”となんども吹き込んだり過去のことを何度もエグったりしたな」
院長「本当に堕ちる時は堕ちたな～まさか、あそこまでするとは～思わなかったなあ」

院長「まるで本物の豚よりぶた・・・」
バキッ!!ドバー!!!ガタンゴロロロロ・・・ガン!!!
院長「キサマ・・・!!!」
チャ「どうした?さっきまでの威勢はどうした?」
チャ「さあ・・・ヨタ話の続きを聞かしてくれ」

院長「話たくない、もうこの話は・・・」
ドカ!バキ!グシャ!
院長「・・・」
チャ「話せ、お前らが知ってきたことを全部!」

院長「ククククク、話題を変えよう・・・なぜ9課が解散したのかについて」
院長「それはなあ・・・お前がいたのがいけないんだ」
チャ「どいう意味だ?」

院長「‘あの人”はお前のことが大嫌いで、お前の人生を無茶苦茶にしてやろうと9課連中に矛先を決めたんだ」
チャ「そんな・・・」
院長「そんなに驚くことか？あの人は気に入らない奴がいればその家族や友人とその家族、仕舞いにはたまたま知り合った奴まで殺すような御方だ」
院長「ああ、今でもあまりの素晴らしさで9課の連中の人生を無茶苦茶にする瞬間が頭にこびり付いてるよあれは大変愉快だったまず・・・」

院長「トグサと呼ばれる男の家庭をブッ壊してやった」
院長「あいつの電脳にコンピューターウィルスを送り込んで精神的に追い詰めた後、暮らしてる近所に
大量のデマな情報ばら撒いて娘は学校で虐められるよう仕向けたり」
院長「特にひどかったのは妻かな～なんていったって一日４０００通モノ意味不明な手紙に豹変した夫、娘の学校問題にそれに・・・」
院長「親戚の家や自分暮らして所が爆発したり放火されたりしたらもういっしょに暮らせなくなるよなあ？ひゃはははは！！！！」
院長「ホント、離婚するまで過程が面白かったぜ！！はははは・・・」
バンバンバンバン・・・カタン、コロロロロ・・・
チャ「お前の話は大変不愉快だったから、最後まで聞くに聞けなかったよクソ野朗」
チャ「地獄で永遠にしゃべり続けなまあ・・・誰も聞かないと思うが」
チャ「じゃな、最低野朗俺はここを立ち去るから次会うときはも少しマシな話を考えておいてくれ」
チャ「それでも・・・聞きたくはないがな2度と」

ディアドクター（後書き）

ヤベェ・・・原作レイプ・・・しちまった
それと長くなってしまった

過去（前書き）

成るがままに。

過去

運命は時として残酷な時がある

知りたくもないことを知ったり、死んでほしくない相手が死んだりなど。

俺はその瞬間をなんども見てきた・・・

コイツたぶん死ぬなあ～と口にだしただけで3日後に交通事故で実際に死んだ友達もいた

俺には不死者になる前からあった力だ

未来を予知する能力・・・日常にあったらぶっちゃけ邪魔でしょうがない。

何故なら人の死ぬ未来しか見れないから・・・

それが→の発言なのだまあ～簡単に言ってしまった俺も悪いのだがそれを知っていて止めない父親も悪いかも知れない。

父親は俺の力を悪い方向に使おうとしただが、未来を見るしかできない力に人の人生を変える力を持つわけもなく・・・ただ、人の死ぬ瞬間しか見れず何時ごろ死ぬのかわからない力に父親は勝手に絶望し。

母親と妹と弟を惨殺しその罪を俺に擦り着けた。

だが、俺がたまたま暮らしていた場所がマイアミでホレイショ・ケイン率いるＣＳ？によって真相が明るみになり父親は終身刑になり永遠にブタ箱送りになった。

ホレイショことチーフは捜査中俺のことを気にかけてくれて、ＣＳ

?のみんなも俺のことを‘9歳の子供”として見てくれた・・・初めてだったあんなにも親身になってくれたりヒトとして扱われることが。
まえは、ヒステリックな母親と俺の力を悪用使用と考える父親に俺の‘力”を知り‘バケモノ”と罵る
同じクラスの子たちに腫れ物のように扱う教師たち・・・そして‘力”を恐れて見て見ぬフリをする大人達

どうしようもない奴ばかりだっただが、妹と弟は俺のこと‘お兄ちゃん”と慕い人して見てくれてた
だから父親の結うことに従うことができた・・・だがもう2人はいない。
父親によって2人を奪われ、罪を擦り着けられそして誰も庇ってくれず弁護士も検事どもも
誰も庇ってくれなかった・・・

俺には‘絶望”二文字しかないと思っていたがそんな中でCS?のみんなと知り合うことができたのだ
俺は彼らによって生きる希望を見つけることができ、彼らの役に立ちたくて何かできないかと

なんやんでいる時に運命の出会いを果たしたそれが・・・LSDことラッキースカイダイヤモンドを率いるレイヴンさんとで会ったんだ。
その人は前世の息子である‘ホープ”という男の子を連れCS?の本部に来ていた。
どうやら、俺のことを必要していることがわかっただから、役に立つのならという想いで入ることにした。
それからというもの・・・‘ホープ”と共に人を殺す技術や人ならざる者たちとの戦い方を身に着ける

と同時に‘力”のパワーを研くことにした
そのおかげで精神と魂を鍛えることが出来た、それと‘ホープ”という名の弟分ができた
ホープは俺のこと‘お兄ちゃん”と慕ってくれた過去に戻った様で心地よかった
気付けば・・・CS?のみんなと共に数々の事件に戦いを挑み、チーフと共に現場で犯罪者やマフィアを血祭りに挙げそれと同時にLSDの捜査官としていろんなセカイの問題に立ち向かっていた
ついたあだ名は‘サタンより恐ろしい少年”と名づけられた因みにホープに名づけられた渾名は‘2代目フランク・キャッスル”だった
この頃から使ってた銃は元凄腕CT?捜査官で今はLSD銃器コンサルタントのジャック・バウアーさんから貰った‘USPコンパクト”で、チーフから誕生日プレゼントとして貰った‘サングラス”
今で二つは大事に使用しているこの頃はまだ・・幸せだっただが、ここから運命が狂った。
副社長をやっていたダブルDによって俺は撃たれ、チーフやCS?みんなを次々と殺していき
仕舞いには自分の元嫁にあたるレイヴンさんに瀕死の重体に負わせ、元息子であるホープをレイプし
無理矢理‘完全なる不死者”にした・・・
この頃からアイツの中で‘計画”が始動していたのかもしれない
俺は意識不明のまま、副社長代理を勤めいていた‘ケビンさん”によって別のセカイに輸送されていた
目覚めたら・・・瓦礫の中だったのその中で女の子の声と男の子の声が聞こえ探してみると・・・
瀕死の状態の子供2人を見つけ彼らを背負い瓦礫の中を飛び出した
そこから・・・あまり覚えていないが折鶴を折った所まで覚えている
一世年も生きたら記憶が曖昧になり困る
また、思い出したらこの話をしよう。

過去（後書き）

もう、長すぎてなに書いてたのか忘れかけているので、
回想編は書ける時に書きます。
本編は真面目にやりますので。

拷問（前書き）

本当に難しい小説とは捻じ切れるほど面白いモノだと思う。

拷問

倉庫
ダ「おーい、起きろ～」
チャ「う・・・なんだ？」

ダ「お久しぶりです～チャイ君」
チャ「久し振り、クソ野朗」

ダ「ほほう～口が汚いねェチャイ君～そんな子には口を綺麗にしないとねぇ・・・」
チャ「はぁ？」
キュイイイイイィィィィー！！！！！！
ガガガガガガ・・・ゴボ、グボ！ブシャ！！

チャ「オゲェ・・・グボァ・・・はぁ、はぁ」
ダ「イタイ？」
チャ「イッダぃって、もんっじゃね、ェ・・・」

ダ「ゴメン、聞こえない」
キュイイィィー・・・ガッガガガガ！！！！！！！
チャ「ギャああア！アガアアー！！！」

ダ「ヒャハハハ・・・！！！！以外と人の体って脆いねぇ～まあどの道再生するけどねぇ」
チャ「テメェ・・・相変わらず反吐がでるぜ」

ダ「え？なんて？？」
カチ、ジョボー！！！！

チャ「今度はガスバーナーかよ・・・」
ダ「左手首をドリルで切り落としちゃったからねェ止血しないと、思って」
ポタ、ポタ、ポタ、ポタ・・・

チャ「余計なお世話だ、バカ」
ダ「ゴメン、良く聞こえなかった～」
ジュ～！！！

チャ「アギャー！！！！アガッ！！！！」
ダ「あのさあ・・・質問してもいいかな？」

チャ「なんだ・・・」
ダ「肉島君といんちょーを殺したのは君かな？」

チャ「状況からしてそうだろ？滅茶苦茶になった院長室で座っている俺以外いたか？」
ダ「ごもっとも」
ジュボー！！！！ジュウウウ～

チャ「あぎゃあああ！！！！」
ダ「ありゃりゃ～今度は右目が潰れちゃったねェ・・・」

チャ「クソたれ・・・」
ダ「ハハハハ」
チョキチョキチョキ・・・ザクッ！！！

チャ「ああ、チクショ・・・」
ダ「ホント公安９課といいお前といいＬＳＤとホープといいなんで口が堅いだよ～」

チャ「仲間は裏切れねェ・・・」
ダ「耳削がれたりドリルで腹に穴を空けられたり目玉を焼かれたり左手首を斬られてもか？」

チャ「ああ」
ダ「ＣＳ？の連中もそうだったなぁ～全然口を割らなかったなぁ～」
チャ「ざまぁ、ミロ」
ジュボー！！！！ジュウウウウ～
チャ「アガ・・・くぅ・・・」
ダ「おお、耐えてる耐えてる・・・強くしよう」
ジュボーーー！！！！！ジュー！！！！！

チャ「アギャー！！！！！」
ダ「あのさあ・・・勝手に死んだ２人から何聞いたの？」

チャ「誰が言うか」
ダ「ヘェ～そう・・・まだ、庇うんだ９課の皆さん方を」

チャ「だから、裏切らないし９課は関係ないだろう！！」
ダ「俺は９課のこともっと知りたいなあ～と思っただけなのに・・・」

チャ「とんだストーカー野朗だな・・・お前・・・」
ダ「ありがとう☆褒めてくれて☆☆☆その期待どうりに・・・」
ザー・・・

ダ「９課の皆さん方とオマケで我がかつての息子で現ＬＳＤ社長のホープの遺体と我がかつての義理の娘で今はホープの保護者兼恋のライトニングの遺体をいれてなんと・・・」

ダ「チャイ君の耳と9課の情報を教えるだけで買い取ることが出来ま～す」

チャ「テメエー！！！！！！！！！！！！！！」

ダ「ギャハハハハ！！！お前が絶対仲間を裏切らないとわかっていたからそれならお前が大切に思っている物を全て破壊して無理矢理吐かした方がいいかなぁ～と思いまして」

ダ「まあ、ぶちゃけあの2人の情報も‘女神”も‘女神の息子”もいらなくてただお前に対する嫌がらせ程度だからゴメンねェ～それと」

ダ「信者たちは金づるでお前が最初に出来た友達‘クゼ”は豚の餌になっているのでそこんとこヨロシク！！！」

チャ「お前・・・クゼまで殺しちまったのか？」

ダ「うん・・・だって‘女神”が愛した男でお前の初めてのこのセカイで知り合った友達だろう？殺しておかないでどうする？」

チャ「なんでそこまでできるんだ・・・」

ダ「だってお前がタチコマの運命を変えるために核ミサイルに特攻仕掛けて消滅して地獄に堕ちたたと知ったら、そりゃあこのセカイを無茶苦茶にしなきゃならんだろう？」

チャ「じゃあ・・・つまり・・・」

ダ「そう、今回のコレは全部お前が消えたからこうなったたってわけ」

チャ「・・・」

ダ「アレアレ？何にも言えなくなちゃったの～ボク？」

チャ「弁解のよちもない・・・俺には」
ダ「だようね～じゃあ死のうか？」

チャ「ああ、殺してくれ・・・」
ダ「わかった～」カッチカチガチン！

ダ「バイバイ～ヒーローさん・・・」
バリン！！ドーン！！！
ダ「お？」
部下「襲撃です、教祖様！！」
ダ「マジで？」
部下「マジです」

拷問（後書き）

長いけど、面白くなっているかな？
なっているといいなあ

救出（前書き）

やっと物語が進みだした

救出

ダ「アームスーツどもまだ、生きてるか？」
部下「いえ・・・全滅しました」
ダ「やっぱダメだったか～じゃあ逃げるぞ、準備しろ”」
部下「はい、わかりました急いで、準備します”」
ブス、チュー・・・
チャ「それなんだ？」
ダ「まあ、ちょっと麻酔薬みたいなモノだから気にするな」
チャ「へぇ・・・そうな・・・」
ダ「ホントはハブの毒素を凝縮した毒薬なんだけどねぇ～」
？「チャイ！」
ダ「あれ？キミ死んだはずじゃなかったけ？？」
？「その手を放して手を挙げろ」
ダ「アレレレ？？？確かキミ、俺がキチンと殺したはずナんだけどな・・・」
？「そんな戯言言う前にチャイに何をした？」
ダ「ヒドイな～あんなことやこんなことした仲なのに～」
シュ！グチャッ！！
ダ「イタタタ・・・相変わらずいいモンもってるぜ」
？「いいから、質問に答えろ」
ダ「別にいいけどさあ・・・こんなことしてるヒマアイツにはもうないと思うけどなあ～」
？「それはどいう・・・」
ダ「そのままの意味だよ、モトコちゃん」
ババババ！！！！！カン！カン！
ダ「ヒャハハハハ！！！！まだまだ詰めが甘いぜモトコちゃん！次は期待して待ってるぞ～」
ドカーン！！！！！

草薙素子「チッ・・・」
バトー「大丈夫か！少佐」

少佐「大丈夫だ！それよりもチャイを見つけた！！医療班を呼べ！」
バトー「了解！！」
数時間後・・・
医療班「医療班の情事くるーにーだ！患者の容態はどうだ！」
少佐「来るのが遅いぞ！」
情事「そんなことは今は関係ない！患者の容態を言え！このメスゴリラ！！」
少佐「重体だ！さっさと治療しろ！！」
情事「無理だ！急いでＥＲに連れて行くぞ！！」

トグサ「そんな所、何所にある！！」
情事「ワタシのセカイにある！！！！！！」

バトー「そんな時間ねぇだろう！」
情事「大丈夫だ１時間で辿り着ければ助かる見込みはある！！」
少佐「わかった！死ぬ前にさっさと連れて行くぞ！！」
バトー「おい、でも・・・」
少佐「今はコイツに賭けてにみるしかない・・・運ぶぞ！！」
バトー「・・・了解」
４時間後・・・
チャ「ゴホ・・・オエ・・・」
ボタボタ・・・
一同「どこが一時間なんだー！！！！！！！！」
情事「すまない、方向オンチだったこと忘れていた・・・誠に申し訳ない」
少佐「早く治療をしろ！」
情事「わかった、全力であたらしてもらうよ」

パズ「もし・・・助からなかったらただでは済まないと思え・・・」
情事「はは、ここから先はワタシの本領発揮だ！！はははは！」
トグサ「アイツ大丈夫かな？ダンナ・・・」
バトー「オレにもわからん・・・」

救出（後書き）

ヤベェ・・・コメディになってしまった・・・それも笑えるかどうか分からないヤツだ・・・

余談

情事くるーにー先生はただの不死者研究家で、ＥＲに入れたのはコネ。

しかも、作中に出てくるオリジナルとオマージュキャラクターよろしく

変態野朗です

８０％（前書き）

ハングリー・・・

８０％

ＥＲ特別待合室
バトー「・・・・」
トグサ「・・・・」
パズ「・・・・」
サイトー「・・・・」
イシカワ「・・・・」
草薙素子「・・・・」
ドン！
情事くるーにー「・・・・」
バトー「ど・・・・」
情事「成功！・・・・だが」

トグサ「だが？」
情事「意識が戻らないとか？戻るとか？」

バトー「どっちなんだよ！！」
情事「戻る２０％戻らない８０％だから・・・・」

イシカワ「ほぼ戻らねぇじゃねえかー！！」
情事「でもでも、目覚める可能性も２０％ともあることだしねぇ？」

トグサ「そうかもしれないけどな、目覚めない可能性の方がかなりあるだろうが！」
情事「そんなに責めるなよ！しょうがないだろう！医師にもミスする時もあるさあ！！」

バトー「なんで逆切れするんだよ！！」

パズ「死ぬ覚悟は出来ているか？」

情事「オマエ、やっと口を開いたと思ったらそれかよ！もういい！！」

カチャ！

バトー「てめぇ・・・」

情事「全員、動くなぁ～動いたらこのオンナが死ぬぞ」

少佐「何のマネだ？」

情事「どうせ死ぬならアンタみたいなベッピンさんと死ぬほうがマシだ！！」

トグサ「お前、それでも・・・」

？「止めておけ」

イシカワ「誰だ？」

浩太「落合・・・浩太、現ＬＳＤ副社長兼第一級ＬＳＤ暗殺者・・・何か文句でもあるか？」

サイトー「ＬＳＤ・・・副社長？」

浩太「そうだ・・・文句はないよな？」

バトー「何もねぇけど」

浩太「そうか・・・ではチャチャット済ませよう・・・」

８０％（後書き）

なんか、サスペンスなのかコメディなのかわからなくなってきました。
いろいろとカオスです。
作品も作者の頭の中も・・・

復活？（前書き）

アイアムハングリー！！！

復活？

情事くるーりー「なぜ、ここの場所が・・・」
浩太「おいおいＬＳＤの監視システムを舐めるなどんなセカイに居ようとお前を見つけられるんだからな」
情事「クソ！テキサスで１日４００００回も女を襲うんじゃなかった！！」
バトー「スッゲェ・・・」
浩太「今更後悔しても遅い。‘死刑確定だ”オマエは」
情事「クソ・・・ツイテネエ！二つのグループから命を狙われるとはなぜこんなことに？」
トグサ「それは、お前の行動が・・・」
情事「俺は悪くない！俺の研究を認めない世の中がいけないだぁー！！！！！」
ベキッ！！シュッ！ガタン！！
チャイと少佐「世の中に不満があるなら自分を変えろ！！それが嫌なら、耳と目を閉じ、口をつぐんで孤独に暮らせ！！それもできないなら・・・」
カチャッ！
情事「ヒイイィ～許してください～後世ですから・・・」
チャイ「少佐、コイツ誰？」
少佐「自称スゴ腕のＬＳＤ医療スタッフだそうだが、見覚えある？」
チャイ「いや、ないや・・・どこで知り合ったの？」

少佐「私達のセカイのＬＳＤ支部だ」

チャイ「へぇ・・・そうじゃあ、たぶん君達を殺そうと仕掛けてきた“奴等”のスパイかもしれないから殺すね」

少佐「話を聞かなくてもいいの？」

チャイ「聞くほどの話も・・・」

バリン！

チャイ「今度はなんだ？」

ランニングリビングデッド「ガルルル・・・」

チャイ「ホント今日は拷問されるは、死んだと思っていた仲間達と再会するは、意識不明されるはワケ分からんヤツに命を救われるは仕舞いには・・・」

ランニングリビングデッド「ウガー！！！！！」

チャイ「ゾンビ襲撃・・・ツイているのかツイていないのかわからなくなってきた」

少佐「逃げるぞ、チャイ！！」

チャイ「その前にコイツを・・・」

ぐちゃぐちゃ、ベキ！ボキ！

情事「助けてくれー！！！！！」

ランニングリビングデッド「あう～クチャクチャ」

チャイ「もう、なんなんだよ」

復活？（後書き）

カオスなことに・・・

アウトブレイク？（前書き）

書くことないです

アウトブレイク？

ER正面入り口
？「ありゃありゃこりゃあヤバイねぇシンジさん」
シンジさん「やばいってレベル通り越して、こっちの身もあぶなくなってきましたけど」
？「大丈夫大丈夫どうせ‘不死者”だから死なない死なない」
シンジさん「それよりも早く人々を助けないとまた、‘始末書”書くハメになりますよジョセフさん」
ジョセフさん「ああ、あまりの世紀末プリに見取れちまってたそろそろ仕事しないとヤバイな～」
シンジ「ヤバイってレベル越えていますよ」
ジョセフ「メキシコの西側の麻薬戦争を思い出しちまった」
シンジ「たしかに・・・でもこちらの方が酷い」
ジョセフ「当たり前だ、なんて言ったって‘ゾンビアウトブレイク”・・・死人が人を喰らうんだしかも感染したら同じことの繰り返し」
シンジ「じゃあこのセカイを封鎖しないと・・・」
ジョセフ「はははははだから、奴等を呼んであるんだ」
シンジ「奴等？」
キイィィー！！！！！ドン！カタン、タッタタタタタ・・・
特殊洗浄部隊「特殊洗浄部隊だ！！！今からここのセカイを封鎖する！！文句あるヤツは出て来い！」

通行人「キャー！！！！！」
ランニングリビングデッド「ウガー！！！！！」

シンジ「ああ、なるほど」
ジョセフ「こいう時にコソ役に立つ，特殊洗浄部隊”ここは奴等に任して中に突入しよう」

シンジ「そうですね、ジョセフさんそれよりも得物はもってきましたか？」
ジョセフ「ああ・・・スパス１２とグロック２６だシンジさんアンタは？」

シンジ「ミニミ軽機関銃とデザートイーグルですさあ、行きましょうジョセフさん」
ジョセフ「だな」

アウトブレイク？（後書き）

ジョセフは前作から性格が少しチャラけております。
その理由は本編で明らかになるといいですね

暴走（前書き）

パーティ！！！！！

暴走

ＥＲ内部中間地点
パパパパパ！、パパパパ・・・
チャイ「クソ！何なんだよあいつ等！！」

浩太「たぶん、ゾンビだ！」
チャイ「ゾンビ？あのゾンビか！！」

浩太「そうだ！あのゾンビだ！」
チャイ「じゃあどうすればいい？」

浩太「頭だ！頭を狙え！！」
チャイ「オーライ、全員下がってろ！」

浩太「なんで９課の連中を下がらすんだ？」
チャイ「ゾンビだぜ？一度は戦ってみたいものだろう？」

トグサ「頭、大丈夫か？」
チャイ「大丈夫さ俺は至ってマトモだよグヘヘヘヘ・・・」

浩太「目がイってる」
チャイ「ヘヘヘヘさあ、かかって来いゾンビども！オレのチンコまとめて突いてやる！！」

バトー「どうする？無茶苦茶なこと言いはじめてるぞ！」
少佐「とりあえず、取り押さえろ」

パズ「了解」

チャイ「ひゃアアアア！！！！オレが最強だー！！！！」
ゴン！ゴン！ゴン！

浩太「手伝おうか？」
パズ「ああ・・・・頼む」

チャイ「パズ・・・・コイよ、いつもみたいに徒手空拳でかかって来い～」
浩太「少佐、アイツ助けた時どんな状況だった？」

少佐「何かを注射されていたが・・・・」
浩太「たぶん・・・・‘毒”だな」

少佐「‘毒”？」
浩太「ふつうの不死者なら死ぬが、たまに生き残るとああなる」

ランニングリビングデッド「ウググググ・・・・」
チャイ「あぁン？何も聞こえねぇなあ～ちゃんと目を見てはなさんかイ！！」

ベキベキ・・・・ボキ！
チャイ「ありゃありゃ、動かなくなちゃった～腕プラプラだ～」
ガブ！
ランニングリビングデッド「グルルル・・・・」

チャイ「おおう？ヤッロうってか？１００年早いわー！！！！！」
メキメキ・・・・グチャ！！
サイトー「どうする？」

浩太「とりあえず、どこかに隠れて時が過ぎるのを待とう」

少佐「賛成・・・」

暴走（後書き）

何かまたまたカオスなことに・・・

調査（前書き）

ハイホー！！！

調査

ＥＲ正面前
ガタガタガチャガチャ・・・
ジョセフ「なんだコイツら？」
シンジさん「‘洗浄調査団”ですよ、ジョセフさん」

ジョセフ「何それ？」
シンジ「このセカイの汚染度を調べる部隊です」

ジョセフ「へぇ～そんな連中いたんだね」
シンジ「本当、組織について知らなさ過ぎでしょう・・・ジョセフさん」

ジョセフ「だってさあ～‘内部調査部”があったことを知ったのはホンの‘３ヶ月前”だぜ？シンジさん、それでも幹部になれたんだそれでいいだろう？」
シンジ「まあ・・・それで幹部まで上り詰めたのはスゴイことですけども・・・」

ジョセフ「だろう？じゃあいいじゃん！」
シンジ「致命的じゃあありませんか？ジョセフさん」

ジョセフ「でもさあ～組織の大半が‘スパルタ人の末裔”だぜ？みんな似たような顔だろ？」
シンジ「たしかに・・・って顔関係ないですし、それに僕たちも‘血”を・・・」

ジョセフ「俺達の‘血”は‘スパルタの血が突然変異を起して不死

の血”になったモノだから正確に言えば‘神の血”だからスパルタは関係なくなってる」
シンジ「それでも、スパルタの・・・」

ジョセフ「あのなあ～シンジさん俺達は人間をやめてるんだ‘不死の血”を輸血した時からなそれに俺達は‘神の直轄特殊部隊”なんだ神が気に入らないことがあれば、俺達が動いて気に入らないことを解決する」

ジョセフ「それが運命付けられたことなんだアンタが一番よく知っていることだろう？シンジさん」
シンジ「でも・・・」

ジョセフ「今更‘スパルタのルール”にしたがった所で俺達に何の得になるんだシンジさん？」
シンジ「それは僕たちの‘美徳”が守れます」

ジョセフ「‘美徳”？アンタ今この状況でそれが守れるとでも？」
シンジ「それは・・・」
ジョセフ「女も子供も咬まれちまえば元気ハッスルにまたヒトに噛み付きまた同じことの繰り返し・・・」

ジョセフ「そんな状況で仲間が守れると思うか？３ヶ月前にそれを守った俺がどんな目にあったか
アンタにはわかるか？」
シンジ「いえ・・・わかりません」

ジョセフ「親友４人全員を失い、相棒も重傷を負い未だに昏睡状態だ・・・そんな状態で美徳を守れ？
ウンナモン守れるか！！」

シンジ「すいません・・・気を使わなくて・・・」

ジョセフ「いや、こちらこそ怒鳴ったりしてすまない・・・アンタの方が上司だということ忘れてたすまない」
シンジ「いや別にいいです別に縦社会じゃあないでしょう？」
ジョセフ「たしかに友達同士みたいなカンジだからなあ～」
シンジ「そうですねぇ～社長も軽いし、みんな上下とか気にしてないですし・・・」

ジョセフ「だから、俺たちはやってこれたと思われるし・・・」
調査団隊員「あのう～おまたせしました！準備できたので乗り込みましょう！！」
ジョセフ「おう～ったくやっとかよ」

シンジ「待ちくたびれましたね」
ジョセフ「だね」

調査（後書き）

ちゃっかりシナリオ主題の話もしています

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4686z/

いつかギラギラする日／アナーキスト２

2012年1月12日21時48分発行